

令和8年度（第2回）
スマート農業イノベーション推進会議（IPCSA）総会

基調講演 海外からみた、日本のスマート農業

国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構
後藤 一寿



01 | 問題提起

農研機構 NARO開発戦略センター副センター長 後藤 一寿

02 | 世界の現状

ワーヘニンゲン大学 上級研究員 Jos Verstegen氏

03 | オランダ現地の農業者・ 開発者インタビュー

開発者 株間除草ロボット Odd.Bot 創業者兼CEO Martijn Lukaart氏

農業者 じゃがいも農家 Jacob van den Borne氏

04 | 世界からみた、 日本農業

インタビュアー 農研機構 欧州拠点（WUR）町田 僚子氏

インタビュイー ワーヘニンゲン大学 Jos Verstegen氏

05 | 総括

農研機構 後藤 一寿

後藤 一寿 (GOTO Kazuhisa)

農研機構欧州拠点の初代リエゾンサイエンティスト。
国際共同研究を企画リードする研究者



農研機構 NARO開発戦略センター 副センター長

東京農業大学 大学院修了 博士（農業経済学）

University of Cumbria, UK, MBA（Leadership and Sustainability）

東京農業大学・北海道文教大学 客員教授

Wageningen University and Research, Guest Scientist (2017-2023)



Jos Verstegen (ヨス・ファーステージェン)

**データ駆動型イノベーションで
次世代アグリフード産業を構想する研究者**

ワーヘニンゲン大学 動物科学 学士・修士

養豚における経営情報システムの経済的価値に関する博士号

Aeres応用科学大学 Master Agribusiness Development 教授

ワーヘニンゲン社会経済研究所 ビジネス・イノベーション 上級研究員

宮崎産業経営大学・高知大学 客員教授（日本）



Martijn Lukaart (マーティン・ルカート)



**AI除草ロボットで次世代農業を実装する
Odd.Bot 創業者 兼 CEO**

オランダを拠点に農業用除草ロボットの開発を進めながら、AIや機械学習、ロボティクスを活用した持続可能な農業の実装を牽引するアグリテック起業家

Jacob van den Borne (ヤコブ・ファン・デン・ボルネ)



**“Elon Musk of Potatoes”
(じゃがいも界のイーロン・マスク)と称される
精密農業の先駆者**

オランダを拠点にジャガイモ等の大規模農業を営みながら、データやGPS、センサー技術を活用した精密農業の第一人者として国際的に知られる農業経営者

Key Message from Martijn



- 農家・研究者・アーリーアダプターの協働が農業ロボット開発を加速する
- ロボットと農業者の良好なインタラクションが普及の鍵となる
- 日本とオランダは高齢化など共通課題を共有し、協力の余地が大きい
- 技術開発と同時に持続可能なビジネスモデルの構築が重要

Key Message from Jacob



- データだけでなく、現場で五感を使って作物を理解することが重要
- 農家が現場課題を明確に発信し、技術開発につなげるべき
- 自然から学び、農業システムや技術を継続的に改善する
- スマート農業の成功には、自然の理解に基づく適時・適地・適作業が重要
- スマート農業は、データと現場感覚（Green Finger）を融合して初めて価値を生む

Key Message from Jos



- 農業をビジネスとして捉え、起業家精神を持つ人材育成が重要
- 農業ナレッジ・イノベーションシステムの強化による持続的な発展が必要
- 日本の強みであるものづくり力を発揮し、中山間地域農業に活かすべき
- 多分野の専門家が連携するエコシステムとプラットフォームの構築が鍵（農家のメリットを明確に）
- AI・ロボティクス・スマート農業技術への需要主導型投資の推進を
- 人材育成とイノベーションを通じて、農業を魅力ある産業へ転換する